

# 令和3年度 三重サツキ類栽培こよみ

**J A 鈴 鹿**  
J A 全 農 み え  
御質問はJA鈴鹿アグリホットラインまで  
☎0120-920880

殺虫剤防除例	月	対象害虫	薬剤名	希釈倍数又は 使用量/10a	備考
	定植前	センチュウ類	ガスタード微粒剤	20~30kg	土壌混和、鎮圧散水(ガス抜き最低2回)
		イシクセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	20kg	全面土壌混和(定植直前施用)
		コガネムシ類幼虫	ダイアジノンSLゾル	25~50倍	全面土壌混和(散布後直ぐに混和)
		コガネムシ類	ダズバン粒剤	9kg	作条処理土壌混和
	4	ツツジグンバイ	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	モスピラン顆粒水溶剤2,000倍も有効
	5	ツツジグンバイ	アドマイヤーフロアブル	2,000倍	株元灌注(発生前、5,000倍、1ℓ/1㎡)
	6	グンバウムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	
	7	ベニモンアオリンガ	オルトラン液剤	250~500倍	ツツジグンバイ(発生初期、生育期株元灌注、250倍、1ℓ/1㎡)
		コガネムシ類幼虫	フォース粒剤	9kg	植付時、全面土壌混和
8	ツツジグンバイ	ダントツ水溶剤	2,000倍		
	ハダニ類	バロックフロアブル	2,000倍	殺卵・殺幼若虫作用	
9	グンバウムシ類・ハマキムシ類	スミチオン乳剤	1,000倍		
	コガネムシ類	ガゼット粒剤	9kg	定植時：全面土壌混和及び株元土壌混和 生育期：株元土壌混和	

殺菌剤防除例	薬剤名	対象病害	希釈倍数	特 性 他
	トップジンM水和剤	褐斑病、うどんこ病、斑点症	1,000倍	予防治療効果、浸透力
	Zボルドー	もち病	500倍	予防効果
	トリフミン水和剤	うどんこ病	3,000倍	予防治療効果、浸透性
	バシタック水和剤75	もち病	1,000倍	病斑進展阻止効果
	ベンレート水和剤	ごま色斑点病、炭疽病	2,000倍	予防治療効果、浸透移行性
	ベルコート水和剤	炭疽病	1,000倍	予防効果
	ダコニール1000	褐斑病	1,000倍	予防効果、耐光性、耐雨性

## 1年生植出し

(施用量：10a当り)

施肥時期	肥料名(例)	施肥量
元肥	ハイフミン特号A 又は ハイフミンハイブリッドG	300kg 100-150kg
	熔燐	120kg
	クドゲン(粒)	100kg
肥	ロング413(270日) 又は <b>営農経済渉外員に 配合をお問い合わせ下さい</b>	100kg
春肥	菜種粕 (ロング使用の場合は施用せず)	120kg
秋肥	クドゲン(粒)	100kg

## 2年目~3年目

(施用量：10a当り)

施肥時期	施肥例1		施肥例2	
	肥料名(例)	施肥量	肥料名(例)	施肥量
春肥	3月上旬 菜種粕 <5.3-2-1>	100kg	花木LP配合 <10-6-6>	120kg
	4月上旬 有機入化成マイルド <9-6-6>	80kg		
	5月上旬 IBジュニア <8-6-4>	120kg		
秋肥	5月中旬 クドゲン(粒)	80kg	IB化成S1号 <10-10-10> クドゲン(粒)	120kg 80kg
	9月下旬~ 10月中旬 IB化成S1号 <10-10-10>	80kg	IBジュニア <8-6-4>	80kg

○平戸・クルメツツジについては、上記施肥基準より、少なく施肥して下さい。

- 上記の病害虫防除は、基準的なものであり、年によって病害虫の発生時期が異なる場合がありますので、その時期にあった防除をおこなって下さい。
- 同一薬剤の連続散布は、病害虫の抵抗力を発達させる恐れがあり、同じ薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がけて下さい。
- 6月~9月の期間は、病害虫発生が著しいため、15~20日間隔の防除をおこなって下さい。

## 農薬使用留意事項

- 使用前には、ラベルをよく読んで下さい。
- 農薬は安全基準を守って使用して下さい。
- 防除時には近接作物への飛散に十分注意しましょう。
- 防除時には、必ず専用の防除衣・マスクなどを着用しましょう。
- 農薬は幼児の手の届く所には置かないで下さい。

◎JAで土壌診断を行い、施肥の合理化を図りましょう。